

TOKEI SHIMPO

東京新報

NO. 12

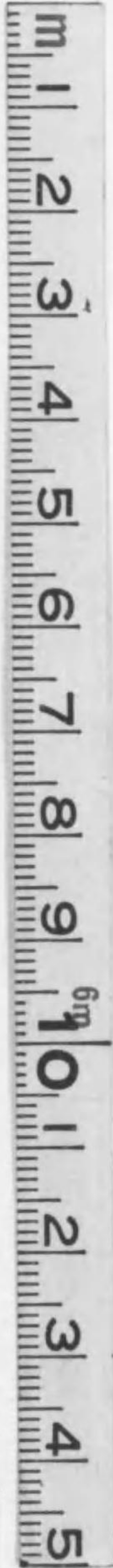
教法論 三
誤學論
容宏傳

明治十年二月二十七日

第十二號



火曜日
發兌



始



東京新聞
明哲者之唇可獲智
無智者之背則有杖
爲之備焉

東京新報第十二號

○ 教法論 三

我們ハ前ニ既ニ教法ヲ以テ人心ノ不長ヲ正シ一身ノ不行
狀ヲ改良セシムルノ要具トシ而テ法律ト學術ノ二個ハ未
タ之ヲ正シ得ルノ權力ナケレバ社會上ノ醜行ヲシテ地ヲ
拂フニ至ラシムルニハ到底教法ヲ振起セザルベカラズト
論述シタリキ然ラバ則チ今ヤ其振起セシム可キ方法ニ論
及スルヲ以テ肝要ナルモノト信ズルナリ
教法ヲ主張シ人民ヲシテ修身ノ道ヲ尊バシメ以テ社會ヲ
利セント欲セバ須ラク先ツ人智ノ如何ヲ熟察セズンバア
ルベカラザルナリ若シ然ラズシテ文運隆盛人智開達ノ如
何ニ關ハラズ只管教法ヲ以テ人信ヲ強ユルキハ實ニ其教

ノ行ハレザルノヨナラズ人智ノ開達ヲ追縮シ開化ヲ妨害
スル固ヨリ淺少ノ事ニ非ザルナリ夫レ古代蒙昧世人ノ智
識少シモ開ケズ品行殆ント禽獸ニ類シ強ハ弱ヲ押シ毫モ
人道ノ責重ス可キヲ知ラズ人ニ接スルニ暴ヲ極ハメ父母
兄弟ニ過スルニ虚ヲ以テシテ德義ヲ脩ムル杯ノフハ夢ニ
モ知ラザル野蠻ノ人民ヲ導クニハ素ヨリ道理ヲ以テスベ
カラザレバ或ハ木像ヲ假レテ以テ天神ノ恐ル可キヲ知ラ
シメ或ハ虚喝妄誕ヲ以テ人道ヲ脩メシル等モトヨリ怪シ
ムニ足ラズト雖モ人智漸ク開達ニ進ミ德義ヲ脩ムルハ人
タル者ノ通義ヲ知リ敢テ大古暗昧ノ禽獸世界ノ暴行ヲナ
サレバ此人民ヲ導クニハ亦タ之レニ適應スル道理ヲ以テ

説カザルベカラザルナリ譬バ人智開ケズシテ狐ヲ信シ蛇
ヲ信シ天狗ヲ信スルカ如キ苟モ人智盛ンニ開ケ禽獸ノ學
ヲ攻ムレハ其妄談即チ明カニ悟リ雷電風雨ノ恐ロシキヲ
以テ神怒ナリト信スルモ亦タ天文ノ學ニ通スレハ即チ其
疑惑自ラ解釋スルニ至ルベシ焉ア此ノ人智ト文運ノ隆盛
ヲ察セズシテ古昔ノ妄説ノミヲ以テ人民ヲ論シ德義ヲ脩
メシムルヲ得ンヤ近ク本邦ノ景況ヲ以テ徴スベキナリ彼
ノ宗教者流ガ多ク地獄極樂ノ方便ノミヲ説キ或ハ地球運
轉ノ説ヲ以テ妄説ナリト論スガ如キ大ニ方今人智開達文
運隆盛ノ如何ヲ察セザルガ故ナリ宣ナル哉世上ノ學士書
生ハ教法ヲ以テ文明世界ノ不用物ナリト云フ更ニ怪ムベ
キニ非サルナリ然リト雖モ我們斯ノ如ク論下シ來レバ世

ノ宗教者流ハ必ズ言ハン教法ハ人智ニモ關セズ又學問ニモ係ハラズ一箇獨立ナル者ニシテ其說タルヤ万代不易ノ確說ナレバ學問ヤ法律等ノ如ク人智ト時勢ニ隨テ變化スル者ニ非サルナリ之ヲ彼ノ學問ヤ法律ノ如ク時勢ニ因テ其說ヲ改メント欲スルガ如キハ宗教ヲ知ラザル者ノ通弊ナリト其レ然リ豈其レ然ランヤ然リト雖モ此說ノ辨駁ハ後日ノ紙上ニ讓リ我們ハ左ノ語言ヲ吐露シテ筆ヲ爰ニ擲カントスルナリ

方今ハ人智開達人文煥發ノ時ニシテ大古蒙昧ノ禽獸世界ニ非サルナリ故ニ我們ハ大呼シテ世ノ教法者流ニ告ゲントス社會ノ醜行ヲ救済スルハ教法ニ依ラザレバ能ハズト雖モ人智ノ如何ヲ熱察シテ其教ヲ布カザレバ當ニ行レサ

ル已ナラズ人智ヲ迫縮シ文明ニ妨害アル豈淺少ナランヤト

○ 誤學論

方今文運ノ日ニ月ニ盛ンナルヤ稱意モ洋文ヲ誦フ女子モ洋語ヲ解ス文學ノ我日本社會ニ布行スル未タ嘗テ斯ノ如ク隆ンナルハ非サルナリ豈又驚嘆セザランヤ然リト雖モ斯ノ如ク語學ノ隆盛ヲ致ス果メ文歩ニ利益ヲ與フル者歟將タ然ラサルモノ歟此一項ニ於テ我們頗ル疑惑スルヲ免レザルモノアルナリ

夫レ我國學生ノ饒テ外國語學ヲ傳習スル抑モ故アルナリ何ントナレバ歐洲人民ノ學術ニ鍊達セル我國人民ノ遠ノ及ブ所ニ非ズ故ニ其學術ヲ學バント欲スルモ國語ヲ異ニ

スルヲ以テ直チニ講習スルニ由ナケレバ先ツ其國語ニ通
シ而テ後チ學術ニ進入セザル可ラズ是レ則チ語學ノ要用
ニメ我國ニ隆盛ヲ致セシ由縁ナリ然リト雖モコレハ是レ
未タ彼ノ學術ヲ窺フニ由ナキ時ニ於テ要用ナルモ既ニ我
國語ニ移シテハ固ヨリ語學ニ從事スルノ迂遠ヲ措キ直
チニ實際適功ノ講究ニ就クノ便利ヲ取ルニ若カザルナリ
看ユク變則生ノ進歩ト正則生ノ進歩ト其孰レノ速カナル
歟チ比較シ以テ其孰レニ利アル歟チ看ユク儘カニ變則ノ一
年ハ正則ノ二年ニ適スルヲ知ルベシ然ラバ則チ變則ノ十年ヲ以
ニ二倍ノ利益アルヲ知ルベシ然ラバ則チ變則ノ十年ヲ以
テ成功スベキ者ハ正則ニテ二十年ノ星霜ヲ要セザル可ラ
ズ豈之ヲ迂遠ナリト謂ハザルベケンヤ

右論述スル所ハ歐洲ノ學術ヲ講究スルニ於テ正則ノ變則
ニ劣ル所以ヲ述べタルノミ今又一步ヲ進メ正則ニ從事ス
ルハ成功ノ遅キノミナラズ他ノ弊害アルヲ以テ我們ハ之
ヲ左ニ論スル所アラントス
夫レ正則ニ徒事スル者ハ先ツ音聲ノ洋人ニ均シカラント
チ汲々勉勵スルガ故ニ中年ノ者ニ於テハ既ニ幼少ヨリノ
發音一定則アルヲ以テ中々ニ之ヲ變スル能ハザルガ故ニ
正則ヲ學バシムルニハ未タ音聲自由ナル幼童ノ時ヨリ西
洋人ニ就學セシメザル可ラズト未タ日本語ニ熟達セザル
童兒ヲメ彼レノ語ヲ學バシムルニ至ルハ自然ノ勢ナリ果
メ然ラバ此童兒ガ勉強シテ能ク外國語ヲ解スルニ至ルモ
日本ノ學問ニ至テハ明キメクテ同様ニテ啻ニ一文章ヲ綴

ル能ハザル已ナラズ手紙ノ往復モ迷惑ノ人物ト成ルハ必
定ナリ其不都合其害果メ幾許アヤ遅キ已ナラズ他ノ弊害
アルトハ此事ナリ方今我社會ニ於テ此類例擧シトセズ試
ミニ世ノ少年輩ヲ看ヨ未タ國語ヲ知リ日用ノ文ヲ綴ル能
ハザルニ先立テ明リニ歌米ノ語ヲ學習シテ少シク解スル
ニ至レバ湯屋デ五座レ牛肉店デ五座レ所嫌ハズニ舶來語
ヲ用ヘ得意ノ色ヲ顯シ揚々トシテ自ラ開化流ヲ誣スト雖
モ五本籍ナル日本ノ事柄ニ至テハ知ラザルモ敢テ恥チザ
ル者續々トメ天下皆是レナリ此流ノ人物ガ成長シテ如何
ナル結果ヲ得ベキヤ甚タ怪シマザルヲ得ザルナリ我門ハ
前文ニ論シタル如ク語學ニ從事スル者ノ成功ハ變則生ユ
リ十年ノ遅キ割合ナレバ我國正則生ノ夥多ナルハ社會

ノ文明ニ進歩スルモ亦遅キ割合ナリ然ルニ之ヲ察セズシ
テ迂濶ノ語學ヲ就フハ果メ何ノ意ツヤ我門ハ之ヲ評スル
ニ誤學家ヲ以テセン歟

○容宏氏小傳ノ續

在橫濱 プラオン

只管勉勵シテ之ヲ獲ントセシガ惜哉其第二等ニ出ルヲ以
テ終ニ之ヲ獲ルヲ能ハザリキ然リト雖モ等ヲ讓ルハ只一
人ニ止マルヲ以テ人皆之ヲ名譽ノ大ナル者トセリ
一千八百五十四年容宏氏ハ遂ニ其校ノ免狀ヲ獲テ本國支
那ニカヘリ自ラ國ノ利益トナルヲ爲ント欲シ香港ノ地
ニ到リ此處ニ於テ法律ヲ學バントシタリ然レトモ其港ニ
居住スル英國ノ法律士等甚タ清人ノ已レト業ヲ共ニスル
ヲ嫌フヒ之ヲ諱ミ之ヲ拒バムニヨリ止ムコトヲ得ズ空シ

ヲ上海ニ至リ便ハナ彼ノ地ニ於テ有名ナル英國ノ商社ニ
 備ハレ常ニ内地往反シ茶ヲ購求スルヲ以テ己ガ務トセリ
 此時未ダ外人内地ニ入ルコト得ザレバナリ容宏氏ハ之ガ
 爲ニ其社長ヨリ大金ヲ預リ持ツコト數回ナリキ又其戈智
 アリテ行ノ正直ナルヲ以テ大ニ社長ノ眷顧ヲ蒙ムレリ乃
 ハナ氏ハ是クノ如クニシテ數年ヲ經ルト雖モ間暇アレバ
 必ス有用ナル英書ヲ讀ミ自ラ同國ノ子弟等ヲシテ更ニ完
 全ナル教育ヲ蒙ムラシメシコトヲ思ヒ日夜其方法ヲ案セ
 リ余嘗テ容宏氏ヲ上海ニ訪ヒシトキ氏ノ清潔ナル室中ニ
 アリテ左右ニ大家ノ書籍ヲ推積スルヲ觀ル僭容宏氏ハ是
 ヨリ漸々ニ富ヲ致シ大ニ金ヲ積ムニ至レリ同氏亦活板ノ
 器械ヲ外國ヨリ購ナヒ新聞紙ヲ發行セント爲シコトアリ

シガ復タ之ヲ他人ニ讓リテ其舉ヲ果サレリキ斯クシテ未
 タ其宿志ヲ達セザルモ其志ヲ撓メス堅ク策ヲ秘シ唯神ニ
 委テ以テ機會ヲ須テリ爰ニ數年ノ後ナ至リ清廷義ヲ建テ
 大ニ兵器軍盤ヲ製造シ以テ國威ヲ皇張シ外冠ヲ防禦セン
 コトヲ謀リ乃ハナ之ガ爲ニ上海罘罘ノ兩所ニ其製造所ヲ
 設ケント企テタリ此議ヲ首起セル者ハ則ハナ彼ノ直隸ノ
 總督李鴻章ト安徽ノ總督ツウフアントナリ清廷既
 ニコノ議ヲ建ツルト雖モ其諸機械ノ如キハ一切之ヲ外國
 ニ要メザルヲ得ズ然メ而シテ其任ヲ負フニ足ル者ナキニ
 困メリ時ニ上海ノ人某偶天津ニアリテ李鴻章ニ謁シ告ク
 ルニ容宏氏ノ其任ニ堪ベキヲ以テ是ニ於テ李鴻章便ハ
 ナツククワウフアントニ書ヲ遣リ之ヲ召シテ其人ト爲テ視

且其果シテ此事ヲ委托スベキ人物ナルカヲ探ラシム此時
ニ至リテ容宏氏ハ之ガ爲ニ安徽ノ總督ノ召命ヲ蒙リ其意
ノ何如ヲシラズシテ自ラ南京ニ上リ總督ノ第二到レリ
ツソクワウフアン人ト爲リ聽取ニシテ言寡ナク容氏ノ室
ニ入ルヲ須テ之レニ座ヲアタヘシメ同シク其室内ニ入り
來リ一日其人ト爲テ洞知セント欲シ暫ラシノ間默然トシ
テ容氏ノ體貌ヲ視シ突然之ニ謂テ曰ク子ハ能ク一聯隊ヲ
指揮スルコトヲ得ルヤト容氏此意外ノ問ヲ受ケ其心大イ
ニ愕ロキシシガ速カニ對テ曰ケルハ否兵事ノ如キハ吾未ダ
之ヲ學ナバズ自ラ堪ヘザルコトヲ諾スルハ吾欲セサル所
ナリト總督之ヲ聞キ默然思惟スルコト少時復問テ曰子ハ
兵器軍盤ヲ製造スルノ機械ヲ購ヒ來ル方法ヲ知ル乎容宏

氏對テ曰ク然リ蓋自ラ之ヲ爲スコトヲ得ント思フナリト(以
下次號)

編輯兼印刷 鈴木倉定

定價
一冊二錢五厘 六冊前金十四錢 十八冊前金四十一錢 三十六冊前金八十錢
府外遞送ハ此外ニ郵便稅ヲ受ク

本局

十字社

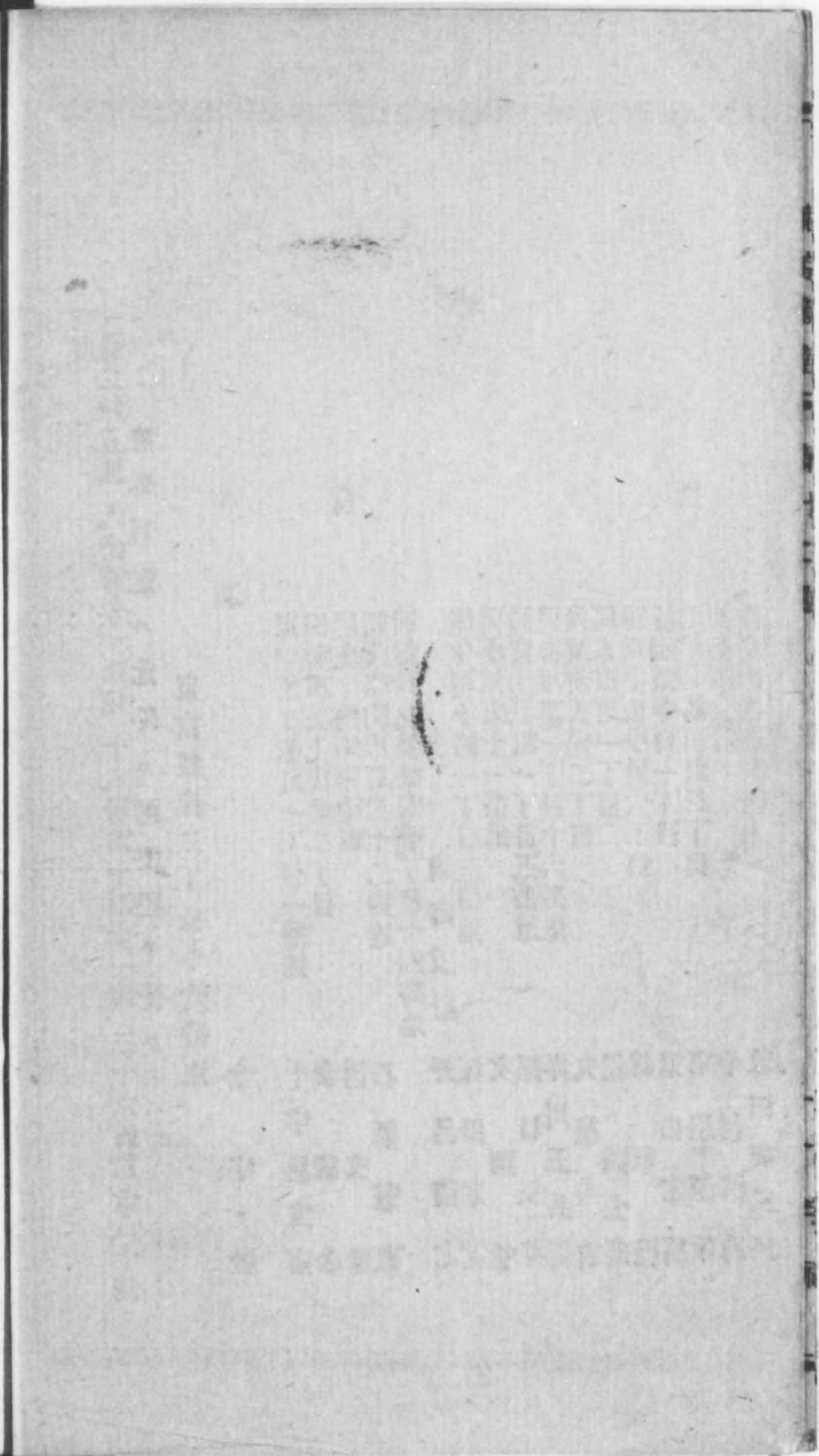
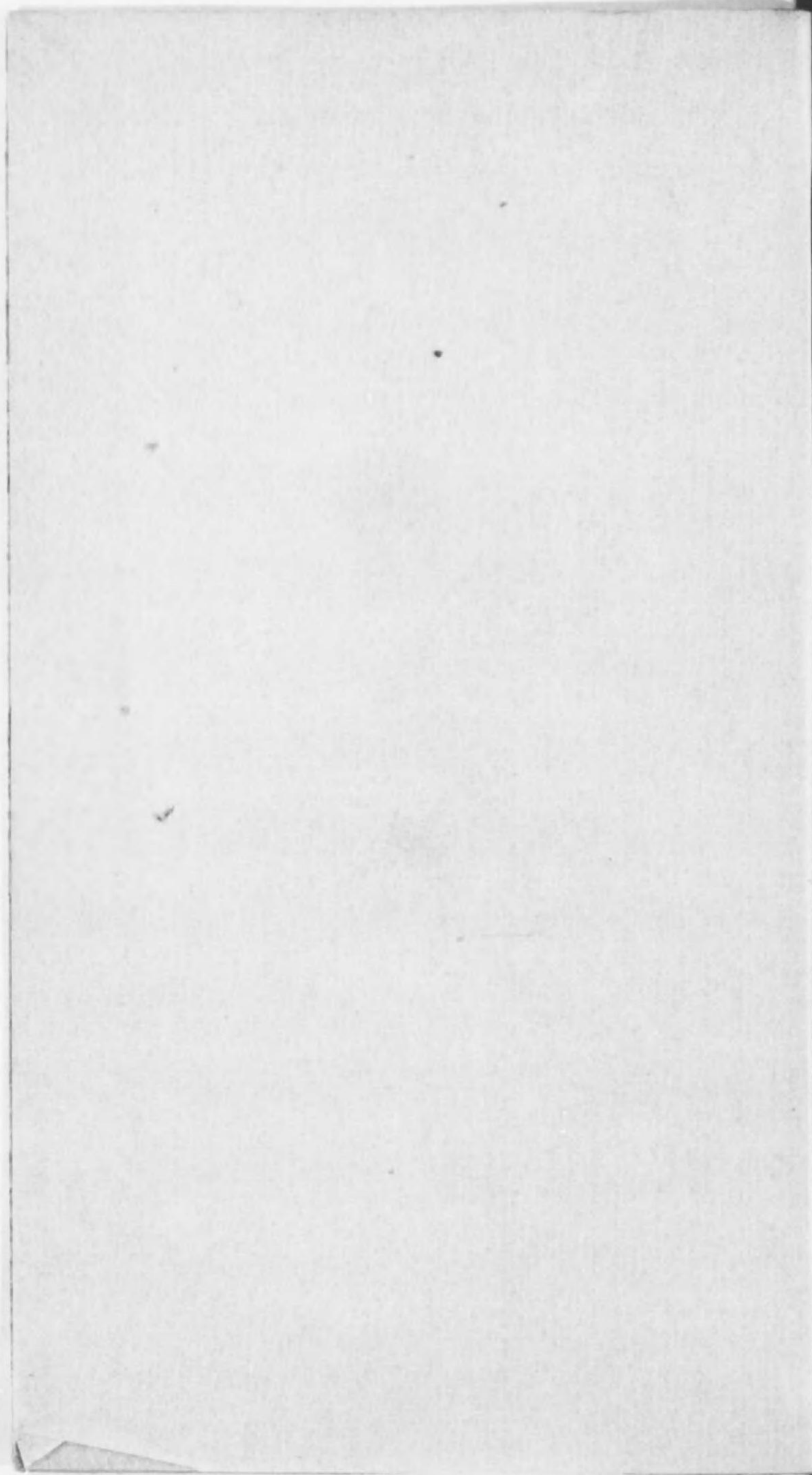
賣

東京芝日影町一丁目一番地
同神田美土代町二丁目
同虎ノ門外琴平町
同淺草駒形町三十二番地
同靈岸島長崎町壹丁目十四番地
同今川小路一丁目五番地
同小川町十一番地
同富士見町一丁目五番地
同赤坂裏一丁目十六番地
同濱坂天通二丁目
同吉田町一丁目
同神戶中山手通六丁目
同靜岡道寺町一丁目
同上海崎町三丁目
同仙臺糠倉町四條上ル

捌

同今川小路一丁目五番地
同小川町十一番地
同富士見町一丁目五番地
同赤坂裏一丁目十六番地
同濱坂天通二丁目
同吉田町一丁目
同神戶中山手通六丁目
同靜岡道寺町一丁目
同上海崎町三丁目
同仙臺糠倉町四條上ル

野呂清七
塚田翠
文開正善堂
繩口五兵衛
赤川五善
丸屋善吉
堤報誠太郎
雜報誠太郎
米山報誠太郎
菊屋源定昌
中村清源
原田與三松



終